

# 学校保健ニュース

## 5月号 高校版

5月5日号 No.1647

5月15日号 No.1648

5月25日号 No.1649

### 成長するには 「根」が大切

心のドクター



### 最初の1本でやめられなくなる たばこの害

性・思春期



### 親知らずって なんだろう

歯



ダウンロード  
できます

## 今月のほけんだより

ほけんだよりは、あっとほけんしつネット (<http://hokenshitsu.net/>) のVIP会員様メニューからダウンロードすることもできます。たより全体は「今月のたより」から、たよりの一部やイラストのみのご活用は、それぞれ下記のカテゴリーからダウンロードしてください。



「たより」  
のネタ帳

- ① 健康
- ② 健康
- ③ 健康
- ④ 健康

**保健だより**

① 食中毒に気をつけよう

② 夏に食中毒の原因になりやすい菌

③ 食中毒を予防するために

④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧



無料イラスト  
カット集

- ① 健康
- ② 病気
- ③ 健康
- ④ 食育
- ⑤ 健康
- ⑥ 健康
- ⑦ 健康
- ⑧ 飾り野

# Inter Press

株式会社インタープレス  
<http://www.inter-press.co.jp>

〒104-0031 東京都中央区京橋 1-17-2 昭美京橋ビル  
TEL 03-3566-6000 FAX 03-3566-6010

# 親知らずの問題点と治療法

監修：タキザワ歯科クリニック 院長 藤波 研先生

親知らずが正常に生えないと様々な問題が起こるため、治療として抜歯が必要になる場合があります。その判断基準と、抜歯を決める際の注意点についてお伝えします。

## 正常に生えない親知らずが増えている

親知らずは、真ん中の歯から数えて8番目の歯で「第三大臼歯」と呼ばれています。これは前から数えて3本目の大臼歯という意味です。ちなみに大臼歯は、食物を噛みつぶす役割を果たしているため「臼(うす)」という文字が使われています。

親知らずは、通常17歳から成人後の間に生えてきますが、先天的に親知らずが存在しない人もいます。また最近では、親知らずが完全には生えず、一部だけ顔を出している人や、適正な方向に生えていない人が増加しています。その大きな理由として考えられているのが食生活の変化です。現代の日本では加工食品などのやわらかい食品を食べる機会が増えているため、顎の骨が細くなる傾向にあります。一方で、歯の大きさは以前と比べて少し大きくなっている(栄養状態がよい)ため、親知らずが生えてくるためのスペースが不足します。その結果、親知らずが正常に生える人が減少しているのです。実際、歯科医院を受診する人のうち、全部で4本ある親知らずが全て正常に生えている人の割合は数%程度だと言います。

## 不完全な生え方の問題点

親知らずが完全に生えないと、次のような問題が起こります。

### 1. 歯ぐきが腫れる

親知らずと歯ぐきの境にすき間ができるため、食べ残しなどの汚れがたまり、歯ぐきに炎症が起こりやすくなります。また汚れが細菌によって分解され、異臭が強くなる場合があります。

歯ぐきの腫れは、疲労などで抵抗力が落ちている時に起こりやすく、1度腫れると、再度腫れることが多くなります。また、腫れるサイクルが短くなる場合があります。症状が悪化すると膿や血が出る、口を開けづらくなる、発熱や倦怠感が現れることがあります。さらに発生する確率は低いのですが、細菌の感染が顎だけでなく、のどや首、胸まで広がると大変危険です。このような場合、一刻も早く医師の治療を受ける必要があります。

### 2. むし歯になりやすい

歯ブラシを使っても汚れを落としづらいため、むし歯が進行するリスクが高くなります。さらに問題なのは親知らずだけでなく、隣の歯までむし歯になる危険があることです。

### 3. 噛み合わせが悪くなる

親知らずが伸びたり、適正ではない方向に生えていたりすると、反対側の歯とうまくかみあわなくなります。その結果、顎がガクガクしたり、開口時に痛みや音がしたり、口が開かなくなる場合があります。また、問題がある歯を避ける動きをするために筋肉に無理

がかかり、噛む時に使われる筋肉だけでなく、側頭部や肩などの筋肉にも痛みが出る場合もあります。

#### 4. 歯並びが悪くなる

親知らずが隣の歯に向かって生えていると、その影響で歯並びが悪化することがあります。

#### 5. 口の中に傷ができる

生えてきた親知らずが反対側の歯ぐきや頬の粘膜にぶつかると傷ができます。この傷が口内炎の原因になる場合があります。

## 抜歯の判断基準

このような問題を解決するための治療として、抜歯が必要になる場合があります。具体的には次のようなケースです。

- ・進行したむし歯があり、痛みが強いためブラッシングや歯間ブラシなどを使ったケアができない
- ・何度も腫れや痛みを繰り返すだけでなく、腫れがひどくなった、痛みの間隔が短くなった、痛みが強くなったなど
- ・抜歯以外の方法では痛みがとれない
- ・歯並びに悪影響を及ぼす

一方で次のような場合は、抜歯をせずに状況を見守ることになります。親知らずがあるからといって、必ずしも抜歯が必要なわけではないのです。

- ・歯肉がかぶっておらず、まっすぐに生えている
- ・親知らずを残しておけば、将来ブリッジや入れ歯移植に利用できる
- ・親知らずが骨の奥深くに埋まっていて症状が全くない
- ・全身疾患の状態が悪い

ただし、親知らずがしっかり生えていて抜歯の必要がない場合でも、親知らずは一番奥に生えていて歯磨きなどのケアがしづらいため、むし歯予防の観点からも、注意してブラッ

シングすることが大切です。

## 抜歯のリスクと 抜歯を決める際の注意点

特に下の親知らずの近くには、太い神経があるため、抜歯の刺激によって3～6ヶ月間、麻痺が出る場合があります。その確率は1%程度とされています。通常、麻痺は時間の経過と共に消えていきますが、ごくまれに知覚鈍麻が残る場合があります。

具体的には、むし歯の治療の際に麻酔をすると、唇の周辺が麻痺して感覚がなくなります。これと似た状態になる場合があるのです。また舌に麻痺や痛みが出て味がわかりづらくなるケースもあります。

そのほかにも、抜歯を行うと腫れが2～4日間続く、強い痛みが長期間続く(20日程度)、開口障害が起きて話しづらくなるなどのリスクがあります。

こうしたリスクを考慮に入れると抜歯の決心がつかない時は、応急処置をした上で様子を見るという方法があります。たとえば進行したむし歯がある場合は、可能な限り除去して応急的にセメントで埋める。腫れがひどい場合は、汚れを除去した上で抗生剤を何度か注入するといった処置を行います。

こうした処置を行っても症状を抑えられない場合は、抜歯をするという決断をすればよいのです。

親知らずを抜歯する場合、そもそも抜歯の必要があるのか、また、抜歯にはどのようなリスクがあるのかについて、詳しく説明してくれる歯科医を選ぶことが大切です。また決心がつかない場合は、医師に応急処置を依頼して様子を見るという選択肢があることも覚えておくとよいでしょう。

実際に抜歯をする場合は、その人の親知らずの深さ、生えている向き、歯根の長さ、炎症の程度、神経や血管までの距離などによって治療の方法や回数などが変わってきます。この点についても納得いくまで医師の説明を聞いた上で、抜歯を行うようにしましょう。